

第3回 十和地域まちづくり推進協議会 会議録要旨

【日 時】 令和2年1月29日（水）午後7時00分～9時00分

【出席者】 岡本英二委員、安藤岳委員、松本大輝委員、松下洋平委員、田頭誠志委員、酒井紀子委員、矢野健一委員、吉川万紀子委員

【行政側】 富田地域振興局長、細川町民生活課長、畦地町民生活課副課長、杉本地域振興課副課長、井口地域振興課主査

【傍聴人】 なし

【議事及び質疑応答】

※最初の議事である市街地再生基本構想における医療・福祉充実ゾーン（昭和エリア）に関し、井口地域振興課主査から以下の冒頭説明を行った。

- ・ 医師不足に対する町の取組および十和診療所の診療時間、受診者延べ人数、大正診療所の診療時間、夜間診療における急患外来と救急受け入れについて。

（田頭誠志会長）

ただいま事務局より、医療・福祉充実ゾーン（昭和エリア）について概要説明があった。これに対して何か委員から質問はないか。

（酒井紀子委員）

十和診療所の患者数の割合は？高齢者何割、こども何割、とか。

（井口地域振興課主査）

今日は受診者の内訳まで調査できていないので、次回までに調べる。

（吉川万紀子委員）

最近、音告を通じて十和診療所の休診が度々伝えられている。当日の午後から急に休診とかもある。これはなぜなのか。

（井口地域振興課主査）

改めて十和診療所に確認のうえ、回答させていただく。

（酒井紀子委員）

沢田医師の勤務について聞きたい。子どもの予防接種でワクチンを打てるのは沢田医師だけ？産業医の活動を役場等でしていることは知っている。沢田医師は小さい年齢の子どもから、中高生とかわりと大きくなって診てくれるし相談にのってもらったりもして、親としては非常に助かっている。ただ気になるのは、医師として診療所に勤務する時間と、産業医など他の業務とのバランスがどうなっているのかという部分。あまり一人の医師に負担がかかってはいけないと思っているし、それが原因で四万十町の医療現場から離れてしまうようなことがないように、心配している。

（細川町民生活課長）

沢田医師の所属は健康福祉課なので、主管課でない関係上詳しいことは分からないが、勤務形態が変わるかもしれないということは聞いている。ただ医師個人のお考えも色々あると思うので、ここではなんとも言えない。

（田頭誠志会長）

大正診療所の沢田医師の業務について、事務局は活動内容と曜日、時間などを次回までに調べてほ

しい。もし沢田医師が異動などになった場合、代わりの医師はいるのかも含めて。全国的に医師が不足しているなか、なかなか補充の実態は厳しいものがあるというのは承知しているが…また、沢田医師のカウンセリング情報もあればあわせて情報提供してほしい。

(松下洋平委員)

大正診療所の夜間の急患（救急）はどのぐらいの件数があるのか？

(富田地域振興局長)

はっきり覚えていないが、考えていたよりも多かったように思う。

(安藤岳委員)

さきほど事務局の概要説明で、この1月から平日の夜間診療のうち週2回急患外来及び救急の受け入れをしないことになったと聞いたが、法的には問題ないのか？

(富田地域振興局長)

実態として、大正診療所の夜間については大正診療所の医師と十和診療所の医師が交代でこれまで行ってきた。ただ、2人で担ってきたのが片方が体調不良となり、もう片方の医師に負担がいくようになって運営が厳しくなった。

(酒井紀子委員)

了解した。ところで地域の高齢化率が相当高くなってきている。医療にかかる予算は？町全体の予算のうち、医療費に割く予算が大きくなったら他にやりたい事業があってもそれへ予算を割けなくなるのではないかと思うが、どうか。

(細川町民生活課長)

予算全体の話で言うと一応、国保の場合は別会計（特別会計）になり、一般会計とは別。医療費に係る予算が大きくなっているのは確かだが、それが原因で一般会計予算が圧迫され、他の事業ができないということはない。

(田頭誠志会長)

他の意見はないか。町へ希望することなどでも構わない。

(矢野健一委員)

さっき診療所の話があったが、医師だけでなく看護師も足りているのか。大正診療所は夜勤もあるし、ちゃんと回っているのか？

(田頭誠志会長)

医師の他に看護師の拡充についての質問ということ。

(酒井紀子委員)

AI（人工知能）の時代は必ず来る。町としてそういった準備は？

(田頭誠志会長)

企画課がそういうのは少しずつ準備を進めている。詳しくは担当でないと分からないが。

(酒井紀子委員)

そういった最新技術を用いて、遠隔診療等もできるよう徐々に用意をしてほしい。

(吉川万紀子委員)

地域の子どもたちが大学で学ぶために町外へ出たりするが、医師になりたいという子どもが居た場合、四万十町からの支援は何かないか。

(細川町民生活課長)

高知県としては支援がある。(高知県医師養成奨学貸付金。担当は高知県健康政策部 医療政策課 医師確保担当)

(田頭誠志会長)

そもそも医師になるには学力が必要。奨学金の制度には課題もある。大学に何年通うか、間違いなく四万十町へ帰ってきてくれるのか等。ある一定の条件を満たせば貸付金の償還が免除されるなど、制度でクリアすべき課題は色々ある。

(酒井紀子委員)

医師に限らず、看護師も同様と思う。

(田頭誠志会長)

給付型の奨学金制度など、研究は必要と思う。

(矢野健一委員)

一人でも医師が地域に居てくれたらすごく助かる。ぜひそういう取り組みをしてほしい。

(田頭誠志会長)

研究の余地はあるものの貴重な意見をいただいた。他に意見等はないか。

(松下洋平委員)

人材育成の一環として、子ども達が医師に話を聞くような機会はないだろうか。医師への憧れを育てるという意味で。

(田頭誠志会長)

医師、看護師の仕事の素晴らしさを伝えるのなら町外へ行って良い。実際の医療現場を見学することは大変勉強になると思う。医師を目指して頑張っている医大生に会いに、医大に行ったりとか。それから、地域の医療の課題を知ること。この2点が重要だと思う。それで、共鳴した子を育てる。やれるだろうし、やる価値はある。

(安藤岳委員)

中学生の職場体験は診療所にも行けるだろうか。

(吉川万紀子委員)

生徒の希望制になっているようだ。本人が行きたいと希望したら、行ける。去年は十和診療所にも1人来ていた。

(安藤岳委員)

選択制かと思っていた。この職種の中から行きたいところを選びなさい、なのかと。希望制というのは初めて知った。

(矢野健一委員)

医師になるには各家庭の経済の問題もあると思う。

(田頭誠志会長)

子どもの職業体験で、選べる職種がこの地域に少ない。地元の診療所と、大きな赤十字病院みたいなところで体験をするのでは、受けるイメージも違ってくるのではと思う。医療行為そのものというより、診療科目の数や患者をサポートする体制はやはり大きい病院は充実しており、学ぶことは多い気がする。また、ここだけで体験するのではなく講演にきてもらうというのもひとつの手だと思う。

(矢野健一委員)

医療の話が出ているので、関連して発言したい。ヘリポートだが、十和に何か所造っている？

(富田地域振興局長)

浦越、大井川、口大道の3か所。そのほかにも、ヘリコプターが離着陸可能な場所は何か所がある。

(矢野健一委員)

ヘリコプターが出動するような機会はあまりないかもしれないが、病院への時間がかかるかなと思ったので。

(田頭誠志会長)

医療について、他にないか。無ければ、次は福祉の議題に移る。

はい、無いようなので次に行く。まず事務局から、十和の福祉について概要説明をお願いしたい。

(井口地域振興課主査)

※あったかふれあいセンター、高齢者生活福祉センターこいのぼり荘、その他的高齢者支援について活動内容や利用人数など、概要説明を行った。

(酒井紀子委員)

ここで改めて、高齢者のショートステイとデイサービスの違いについて説明をお願いしたい。

(畦地町民生活課副課長)

ショートステイとは、在宅で生活している高齢者が数日間施設に入所して食事、入浴、機能訓練などを受けられる介護サービスのこと。

デイサービスとは、要介護認定を受けた方が自宅での生活を続けていけるように、身体機能の維持・向上を目指して機能訓練をしたり、入浴や昼食、各種のレクリエーションなどができる介護サービスのこと。

(酒井紀子委員)

該当施設からの送迎は？

(畦地町民生活課副課長)

ある。

(矢野健一委員)

十和で、そういった福祉施設等に入所できずに待っている人はいるか。

(畦地町民生活課副課長)

十和地域では、そういった人はいない。四万十荘や特老には待機者もいると聞く。そちらは、在宅での生活が困難になった要介護3以上（特例の要介護1・2）の高齢者が入居する。

(酒井紀子委員)

体は動けるけど、認知症だけという人は？

(畦地町民生活課副課長)

動けて認知症だけなら、介護度は3ぐらいかなと思うが介護認定の状態による。

(酒井紀子委員)

介護認定の審査は誰がやっているのか。

(畦地町民生活課副課長)

要介護認定の判定は、2つのステップで行われている。町に申し込みがあったあと、介護支援専門員による1次判定がある。その結果を受けて、医療、保険、福祉の学識経験者で構成される介護認定審査会が判定する。四万十町の場合、この2次判定は須崎市で行っている。

(酒井紀子委員)

古城小学校の1階でやっているのは宅老所？

(畦地町民生活課副課長)

そう。宅老所。

(吉川万紀子委員)

あれは地域でやっている。

(畦地町民生活課副課長)

宅老所は、地域のボランティアによる運営。ただ、町としてもそういった宅老所や運動自主グループの立ち上げだったり運営の支援を行っていて、それらを「一般介護予防事業」という。主管は、地域包括支援センター（健康福祉課）。

(吉川万紀子委員)

十和では宅老所が前は3か所あったが、あったかふれあいセンターが出来てからは（そちらでも介護予防の様々な取り組みをしているので）今は1か所、古城のみになっている。

(安藤岳委員)

さきほど、こいのぼり荘の話が出たが施設の老朽化による改修予定はないか。また、今後高齢者はますます増えていくことが予想されるなかで、定員は大丈夫なのか。

(畦地町民生活課副課長)

定員の問題は大丈夫だと思っている。それよりも、受け入れる施設側の人出が足りない。どこもそうだと思うが、人手不足は深刻で介護をする側も徐々に年齢が上がってきている。施設そのものでいうと、空調とかそういった細かな改修はしてきている。だが、大規模な改修工事などは現段階では考えていない。

(酒井紀子委員)

施設の食事を考える栄養士さんも不足している。介護現場も人が足りない。

(松下洋平委員)

十和だけの数で構わないが、介護現場で働く外国人はどのぐらいいる？

(畦地町民生活課副課長)

はっきり言いきれないが、恐らく十和では介護現場で働く外国人はいないと思う。

(松下洋平委員)

医療や介護現場だけでなく、外国人の人材は様々な職種で求められている。町としてそういった考えは？

(細川町民生活課課長)

こいのぼり荘の話の流れでお答えすると、ここの運営は四万十町の指定管理事業としてしまんと町社会福祉協議会に担ってもらっている。外国人人材のことは時々話に出るが、今は踏み切れていないのが現状。

(酒井紀子委員)

福祉の話が続いているので、ちょっと発言させてほしい。昭和地域の地域コーディネーターをやってくれている方から、この市街地再生基本構想のゾーニングについて、ぜひ「児童福祉」という観点も入れてほしいという声が届いている。

(田頭誠志会長)

これについて事務局、なにか意見を。

(井口地域振興課主査)

皆さんのお手元に配布した市街地再生基本構想は、今後基本計画としてより具体的な内容に仕上げていくもの。今は、昭和エリアのH「医療・福祉充実ゾーン」になっているが、広い意味では児童福祉も福祉の一部であるのでここへその「児童」という視点を入れるのはもちろんアリだと思う。

(田頭誠志会長)

ちなみに、児童福祉について。保育所と幼稚園は所管が違う。保育所は、厚生労働省が児童福祉法に基づいて設置している。一方で幼稚園は、文部科学省が学校教育法に基づいて設置している。一般的に保育所は、保育に欠ける事情がある子どもが利用する。親が仕事や病気などで保育することが難しい場合。幼稚園は、決められた年齢になれば入園できる。保育所も認定こども園も主管課は、教育委員会の生涯学習課。

(矢野健一委員)

大正の認定こども園は？

(田頭誠志会長)

認定こども園は、教育と保育を一体的に行う施設で、いわば幼稚園と保育所の両方の良さを併せ持っている施設。ひとくちに認定こども園と言っても種類がいくつかあって、幼保連携型の認定こども園だったり、幼稚園型、保育所型など。四万十町の場合は、保育所型を採用している。さて、ここまで様々な福祉について話し合ってきたが、その他町への要望などはあるか。

(吉川万紀子委員)

私から3点話をさせてほしい。

1つ目は、十和に作業所とか引きこもりのサポートができる場所がないこと。引きこもりの人は、学校に行っているうちは周りの様々なサポートが受けられるが、そういう時期を外れたら支援が回りにくくなる。今の原状でいいのか？と思う。

2つ目は、高齢者で移動手段が無いためしんどいのを我慢して病院を受診しない人がいる。交通の話になると思う。

3つ目は、隣保館とかでは小物づくりをしたり体操をしたり、いわゆる生涯学習活動のメニューがいくつか提供されているが、場所が昭和寄り。十川在住の人は行きにくいそう。これは十川のやや年配の女性たちが言っていた意見。要するに、十川にもそういう楽しみというか、生きがいがづくりの場が欲しいという要望。

(田頭誠志会長)

意見は了解した。それでは一旦ここで休憩を挟み、再開後は吉川委員の発言にあった3点について協議したいと思う。

— 休憩10分間 —

(田頭誠志会長)

休憩前に引き続き再開する。まず、引きこもりの人について。若者サポートステーションが高知県全体として縮小している印象を受けている。人に寄り添うような活動が。

(酒井紀子委員)

学生のうちは分かる。そこを外れてしまった青年～成人の引きこもりの人をどう把握するか。馬鹿にできないのは近所の人。そういったのが地区の民生委員の耳に届いたら、支援の手立ても見つかるとも思えない。

(田頭誠志会長)

健康福祉課の主管になるが、実は町としては引きこもりの人は把握していて、関係者間で情報共有をしている。学生も、そうでない人も。ただ、当該人の年齢が学生を外れると把握は難しくはなる。

(酒井紀子委員)

そういった人への支援があるよ、町としてもあるよ、という PR は？

(田頭誠志会長)

一応、広報誌に載ったりしている。引きこもりは学生でなくなった以降を追うのが大変だと思う。だが町として何も支援の手立てが無いわけではない。

(矢野健一委員)

そういった人を抱えている家庭から声上がるかどうか。実態としては、なかなか言い出しづらいのではないかと思うが…

(田頭誠志会長)

それと 2 点目の高齢者の受診について。病院への足は、それこそ診療所バスやコミュニティバス、各種公共交通が担っていると思う。

(吉川万紀子委員)

白井川のほうはコミュニティバス入っているか。

(富田地域振興局長)

そちらは入っていない。

(酒井紀子委員)

十和の商店では、高齢者がたまたま鉢合わせた買い物客（知り合い？）に、車への同乗を頼んでいる姿をよく見かける。

(田頭誠志会長)

町としても公共交通のことは協議をこれまでも進めてきたし、必要に応じて地域への聞き取りもしてきているが…。そして 3 点目の、生きがいの場づくり。

(吉川万紀子委員)

私が聞いた十川の女性たちの要望は、歩いて行きたいということ。

(細川町民生活課長)

今後の課題にさせてほしい。

(田頭誠志会長)

医療・福祉充実ゾーンについても、ほかに意見はないか。例えば十和診療所は土砂災害警戒エリアのイエローゾーンになっている。

(富田地域振興局長)

確かに十和診療所はイエローゾーン。ただ、十和はイエローばかりと言っても良いぐらい。これらすべてを安全な場所に…とは地理的にもなかなか難しい。しかし、地域住民の命を守る要となる診療所を本当にイエローゾーンのままで置いていて良いのか？となれば、移転も視野に入れないといけない。

(田頭誠志会長)

要するにイエローの中でも、優先度の問題と思う。委員の皆さんのご意見を聞きたい。

(酒井紀子委員)

各地区の避難所だが、四万十町周辺の海辺の町は津波被害なども予想されていて、そういった地区に住んでいる町外の人も受け入れると聞いたが。

(富田地域振興局長)

避難所にもいろんな種類がある。一次避難所と呼ばれるのは、各地区にある集会所とかそういった場所。二次避難所は、少し大きなところ。支援物資が届くようなところ。十和では8か所ある。この二次避難所が、要するに拠点になる。さきほど酒井委員がお話された、他市町村からの避難者を受け入れるのは、二次避難所に指定されている中から選ばれた「広域避難所」というもの。

(矢野健一委員)

昭和中学校の跡地利用について、この推進協議会でも以前ちらっと話し合ったが昭和中学校に十和診療所を移転させ、避難所としても整備してはどうか。有事の際に、二次避難所としても機能させることができ、具合の悪い人や怪我をした人も診療所が同建物内にあれば動きが早い。さらにグラウンドが広いのでヘリコプターも離着陸できると思う。

(酒井紀子委員)

古城小学校のグラウンドは？

(富田地域振興局長)

古城小はフェンスがあって、ヘリコプターは厳しいかもしれない。また、グラウンドについては仮設住宅のことも考えないといけない。

(田頭誠志会長)

イエローゾーンの優先度としては診療所、どう思う？

(矢野健一委員)

やっぱりメインの診療所から何とかするべきじゃない？

(松下洋平委員)

命優先で、自分もそう思う。

(酒井紀子委員)

個人的にも、人命救助のメインである場所が潰れてしまっただけではどうしようもないっていうのはある。それを見据えて、安全な場所に移転してほしいと思う。それと、診療所の駐車場は狭い。あと、自分は文化的施設の方にもかかわっているのものでそちらの事も考えるが、避難所と文化的施設を複合的に考えられないか、とか。本をちょっと読んだりすることが避難者の癒しになれば良いと思う。小鳩保育所の跡地利用も、進入路が狭くて車が入りにくいなら歩いて行ける人に活用してほしいと思う。

(矢野健一委員)

津波が沿岸を襲ったら、高知市方面からは避難者は来れないのでは。十和の防災とか横の連携を考えるなら、ここは愛媛県と考えるべきだと思う。三島トンネルも大きな地震があったら潰れそうだし、そうなるとう陸路での物資は来ない。

(田頭誠志会長)

防災の連携については、十和地域振興局としても水面下で色々考えているようだ。今日はもう時間がきたので、ここまでとさせてもらおう。次回の会は？

(井口地域振興課主査)

今年度として最後の会を、2月か3月にやりたいと思っている。時期はいつ頃が良いか？

※複数人から発言あり。

(井口地域振興課主査)

それでは、次回の会は2月後半から3月上旬で段取りたいと思う。今年度最後にはなるが、委員の皆さんの任期は9月末までであるので、引き続き審議をお願いしたい。また、次が区切りの会議になるので、今年度皆さんが話し合ってきた内容をざっくりでもまとめたものを提示したいと考えてい

る。それとお願いが1点ある。今日お配りした「四万十町市街地再生基本構想」の抜粋版だが、次回の会でも使うので、捨てずにまた持参してほしい。

(田頭誠志会長)

その他、事務局へこんなものを用意してほしいとかいうリクエストは委員から何かあるか。

(酒井紀子委員)

企画課がやろうとしている AI 技術や ICT を使ったスマート定住政策について知りたい。資料も欲しいし、直接ここへきて説明してほしい。今日の話にも出ていた医療や福祉にも通じる話（遠隔診療など）も聞きたい。

(田頭誠志会長)

事務局、こういった意見が出たので次回用意をお願いしたい。それと、冒頭の診療所や医師の勤務形態についても答えを用意してほしい。

次回の第4回十和地域まちづくり推進協議会の議題は、今日最後まで行きつかなかったもので、駅前開発ゾーンについてと、残る2つは両方とも十川エリアだが、地産地消・外商・観光振興ゾーンと流通拠点充実ゾーンについての、計3つの議題を取り上げたいと思う。

それでは今日はこれで終わりとする。次回もよろしくお願いしたい。

— 終 了 —